

総合防災マップの有効活用を



町長

地域や施設での活用を促す

小林 一幸



質問 総合防災マップの地域での活用状況はどうなっているのか。

答弁 町長 6月までに上新田及び斎田区が総合防災マップを活用した訓練などを実施した。今後も複数の地区で防災訓練を行うとの報告を受けている。町でも総合防災マップを活用した訓練を積極的に行ってもらおう、すべての区に働きかけていきたい。

質問 地域の介護施設や医療機関等には配布されているのか。

答弁 環境安全課長 学校や公共施設には配布した。その他の介護施設等については、取り来たところには渡したが、それ以外は配布できていない。早急に配布するとともに、災害時、高齢者等の要支援者を受け入れる避難施設的な役割を担ってもらえるかについても依頼していきたい。

質問 D-I-G（災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）を使った訓練は行われているか。

答弁 町長 平成29年11月に県や町事務局、地区関係者等が参加し、HUG訓練を行った。両訓練ともに実際の災害時に大変有効なものであるため、災害訓練の一つとして採用していく。



地域防災マップとHUG（避難所運営ゲーム）

地域包括支援センター機能のPRを

質問 地域包括支援センターの機能・役割は。

答弁 町長 平成29年度から町内3カ所となり、高齢者の相談に、より身近な地域で権利擁護や介護予防等の必要な支援を行う包括的な総合相談窓口としての役割を担っている。

質問 医療機関や介護施設等への周知はできているか。

答弁 町長 広報や各種団体の会議等で案内・周知を行った。また、居場所等でもPRし、安心して相談してもらえる地域包括支援センターとなるよう事業を進めている。

質問 センターは個々に医療機関等を訪問し、PRしていないのか。

答弁 健康福祉課長 PRのため個別訪問については、個々のセンターに対応を任せている。

こんな質問もしています

・観光による地域振興について